

特集

千葉市学力状況調査



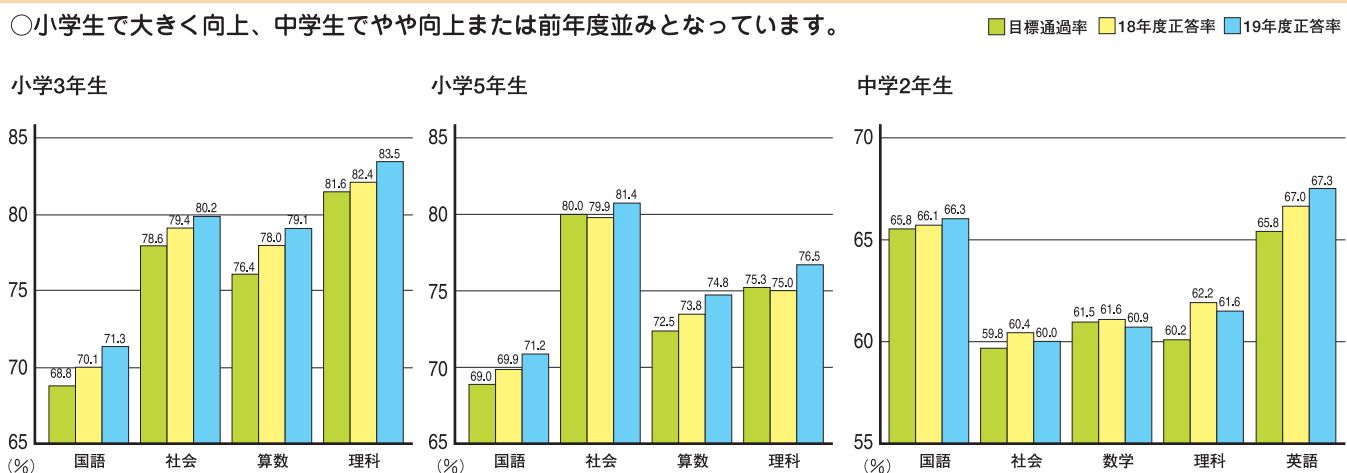
千葉市の子どもの学力と学習意識

—学力状況調査（平成19年度末実施）の結果から—

千葉市では、「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校」づくりに向けての取り組みのひとつとして、平成16年度からすべての市立小・中学校で一斉の学力状況調査を実施しており、この調査結果の分析・考察を通して、学習指導の改善を行っています。

1 学力調査の結果 目標通過率・前年度との比較

○小学生で大きく向上、中学生でやや向上または前年度並みとなっています。

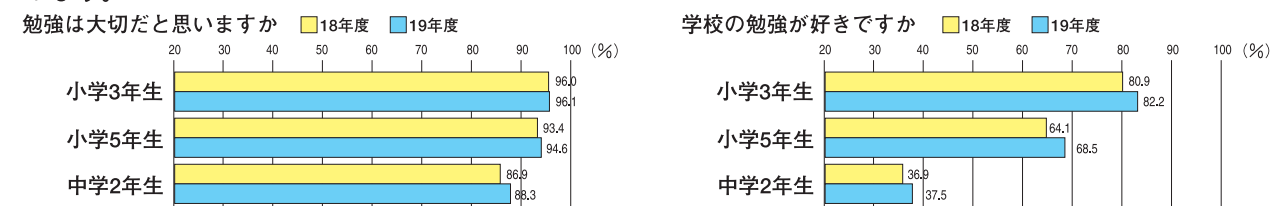


「目標通過率」とは、県全体の平均正答率をもとに設定した数値。目標通過率の±5%以内に入っていれば、「おおむね良好」な結果と言えます。

2 意識調査の結果

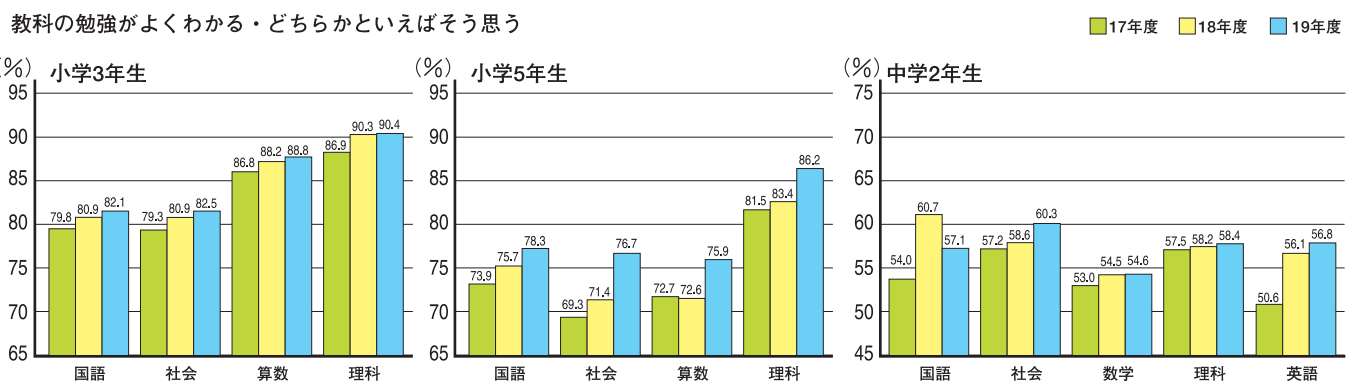
(1) 学校の勉強に関すること

- 「学校の勉強は大切だ」と考えている児童生徒の割合は前年度とほぼ同様で、小学生で95%程度、中学生でも90%程度となり、ともに自分に役立つものと認識しています。
- 「学校の勉強が好き」と回答した割合は前年度よりも増加していますが、中学生では小学生に比べて増加率が小さくなっています。



(2) 「わかる授業」に関すること

- ほとんどの教科で「よくわかる・どちらかといえばそう思う」という児童生徒の割合が増えており、確かな学力をはぐむための「わかる授業」への取り組みの効果が上がっていると言えます。特に、ここ2年間の中学2年生の英語の伸びが顕著です。これは、本市独自の「小学校英語活動」の取り組みが要因のひとつと考えられます。



調査の概要

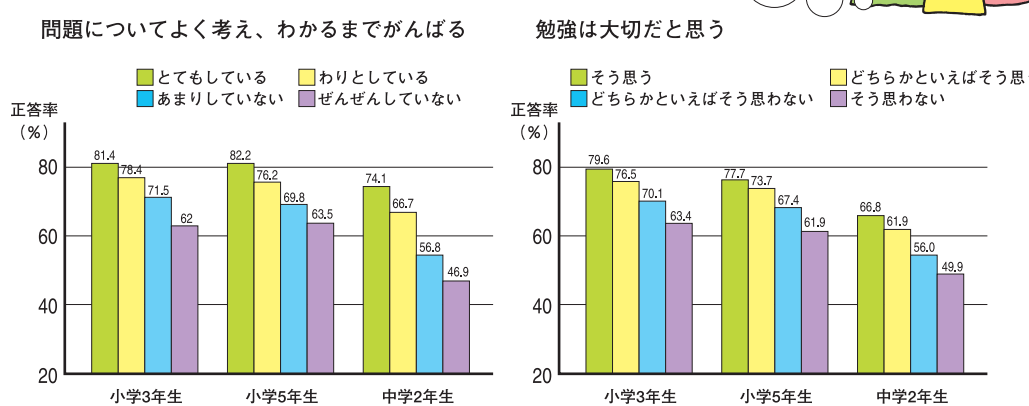
今回の調査では、市立120校の小学3年生・5年生と、56校の中学2年生の全児童生徒を対象に、「学力検査」と「意識調査」を実施しました。学力検査は、千葉県下で多くの学校が採用している「千葉県標準学力検査」を用いました。小学校は国語・社会・算数・理科の4教科、中学校は英語を加えた5教科です。19年度の問題は18年度調査と同じ問題です。意識調査は、学習に対する意識や生活状況の実態、学力と学習意欲や生活習慣との関連を明らかにするために、本市で独自に作成したものです。

(3) 意識・実態調査と学力との関連に関すること

下のグラフは、設問の回答群ごとの正答率を表しています。

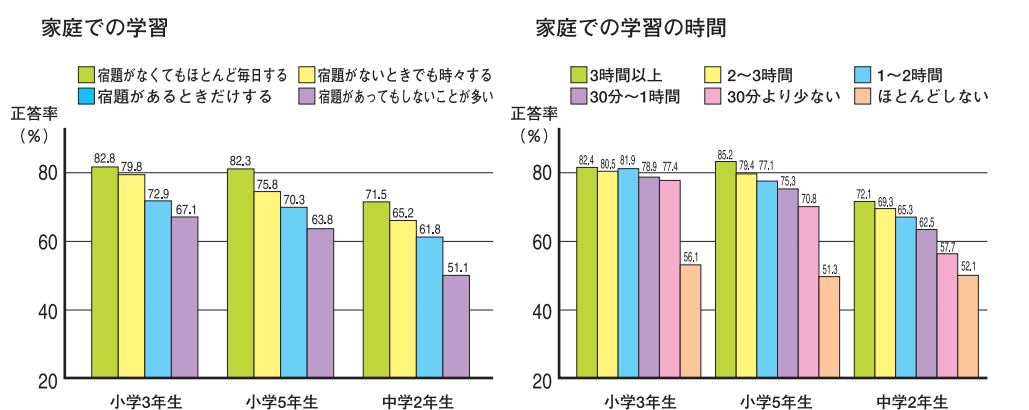
学ぶ意欲

- 問題についてよく考え、理解しようと努力する児童生徒と、しない児童生徒の正答率には大きな開きがあります。
- 学校では、「自ら学ぶ意欲」を課題として教育に取り組んでいます。



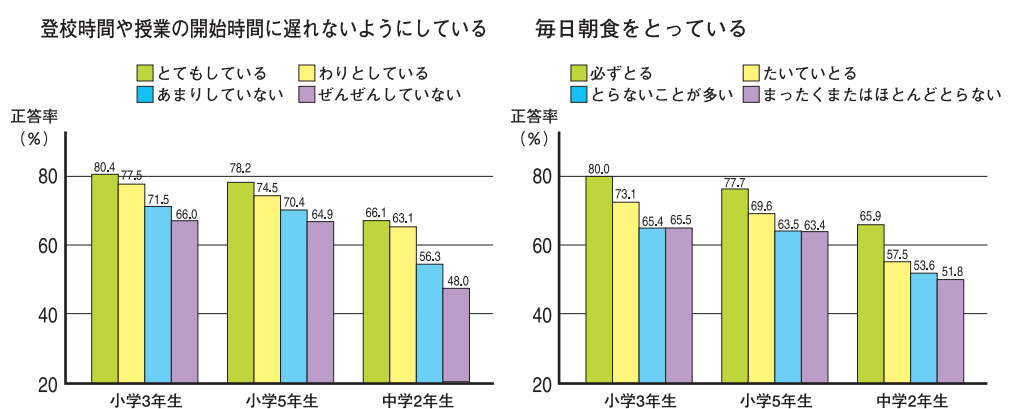
家庭での学習

- 家庭学習は、学力の向上に大きな効果があります。
- 学習時間が30分程度でも、ほとんどしない児童生徒とでは、大きく正答率に差があります。



基本的な生活習慣

- 朝食をとり、余裕を持って家を出るといった基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒は、正答率が高い傾向があります。規則正しい生活習慣は、学びの原動力です。



児童生徒の学力と学習意欲や生活習慣との間には、きわめて密接な関係がみられます。家庭での学習や規則正しい生活を心がけましょう。